

令和3年度事業報告書

(令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日)

令和4年5月13日(金)

公益財団法人DNP文化振興財団

令和3年度事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

1 アーカイブ関連事業

(1) 田中一光アーカイブ

①本人作品ポスター	2,747点
版画	257点
エディトリアル	2,161点
原画類	3,565点
その他(パンフ/V.I.等)	3,139点
②資料写真	27,999点
その他資料類	2,395点
③他作家作品ポスター・版画等	1,140点
その他	161点
④蔵書	9,871点

(2) 福田繁雄ポスターアーカイブ

①本人作品ポスター	1,576点
版画	178点
原画類	978点
その他(クラフト作品等)	527点
②資料 書籍等	597点
③他作家作品ポスター・版画	2,571点

(3) 永井一正作品アーカイブ

①本人作品ポスター	912点
版画	327点
エディトリアル	1,273点
原画類	797点
その他(V.I.等)	789点
②資料 作品ポジ	646点
その他資料類	2,126点
③他作家作品ポスター・版画等	153点
その他	63点

(4) ポスターアーカイブ (令和4年3月末現在)

1 収蔵作家：244名 (国内作家124名 海外作家120名)

2 総点数：17,513点

3 令和3年度の受入れ状況：

[国内作家]

片山利弘 38点

松吉太郎 196点

和田誠 1,159点

ギンザ・グラフィック・ギャラリー

「SPORTS GRAPHIC」展出品作品 35点

東京2020公式アートポスター 20点

計 1,448点

[国外作家]

チューリッヒ・デザイン・ミュージアム・

ポスター 33点

計 33点

合計 1,481点

(5) アーカイブ作品の貸出

①武蔵野美術大学美術館・図書館

「片山利弘—領域を超える造形の世界」展

会期：令和3年4月5日～6月20日

概要：片山利弘ポスター作品1点を貸出

②国立新美術館

「ファッション イン ジャパン 1945-2020 流行と社会」展

会期：令和3年6月9日～9月6日

※島根県立石見美術館から巡回

概要：石岡瑛子および山口はるみポスター作品計3点を貸出

③3331 Arts Chiyoda

「オルタナティブ！小池一子 アートとデザインのやわらかな文化創造に向けて」展

会期：令和4年1月22日～3月21日

概要：石岡瑛子、山岡茂および木下勝弘ポスター作品計4点を貸出

2 展示関連事業

(1) ギンザ・グラフィック・ギャラリー (ggg) の展示

〒104-0061 中央区銀座 7-7-2 DNP 銀座ビル 1階、地下1階
日曜・祝日休館、開館時間：午前 11：00～午後 7：00、入場無料

■第 382 回 TDC 2021

会 期： 2021 年 4 月 1 日～4 月 26 日
当初予定会期 4 月 1 日～5 月 29 日
緊急事態宣言により 4 月 27 日以降は休館
入場者： 4,043 名、一日平均 183 名

東京タイプディレクターズクラブが主催する文字表現が中心のグラフィックデザインの国際コンペティション「東京 TDC 賞 2021」の展覧会です。国内外からの応募 3,750 作品の中から受賞・ノミネート作品を含めたグラフィック 122 点を紹介しました。

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言により 4 月 27 日以降は休館しましたが、ウェブ上で会場風景を楽しめる VR コンテンツを公開しました。

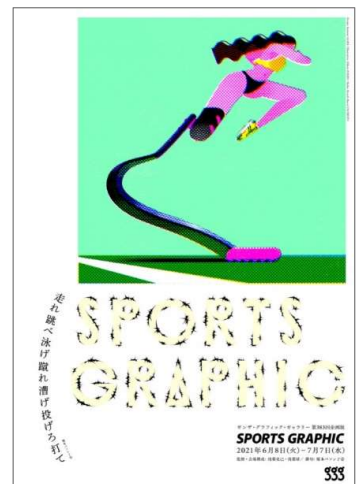


■第 383 回 SPORTS GRAPHIC スポーツ・グラフィック

会 期： 2021 年 6 月 8 日～7 月 7 日
入場者： 3,179 名、一日平均 122 名

東京オリンピック・パラリンピック開催に先立ち、スポーツの躍動感や興奮を、グラフィックを通して伝える展覧会を開催しました。1972 年札幌冬季オリンピックから、東京オリンピック・パラリンピック 2020 のための作品まで、時代を超えて幅広く紹介しました。筋書きのないドラマであるスポーツを、デザイナーたちが 1 枚の紙面上にどのように定着させたのか、制作意図や時代背景にも目を向けました。

また、榎本バソン了壺氏による多彩なスポーツの世界観を表現した俳句も展示し、作品鑑賞にユニークな視点をもたらしました。監修・会場構成は、浅葉克己氏・浅葉球氏親子。異なる世代から見たスポーツの魅力を伝えました。



■特別展 オリンピック・ランゲージ：デザインでみるオリンピック

会 期： 2021年7月20日～8月28日

入場者： 3,646名、一日平均133名

東京オリンピック2020にあわせて、オリンピック文化遺産財団との共催展「オリンピック・ランゲージ：デザインでみるオリンピック」を開催しました。本展はローザンヌのオリンピック博物館で2018年から2019年にかけて開催された展覧会「Olympic Language: Exploring the Look of the Games」の巡回で、デザインの面で画期的だった1964年東京、1968年メキシコシティ、1972年ミュンヘン、1994年リレハンメル、2004年アテネの5大会がどのようにデザインで統一感と個性を表現してきたかを紹介しました。

初日には会場と選手村、ローザンヌのオリンピック文化遺産財団をオンライン会議システムで結んでオープニングセレモニーを行ったほか、8月6日にオリンピック・デザイン史家のマルクス・オスターヴァルダー氏による記念オンラインレクチャーを開催しました。



■第384回 葛西薫展 NOSTALGIA

会 期： 2021年9月8日～10月23日

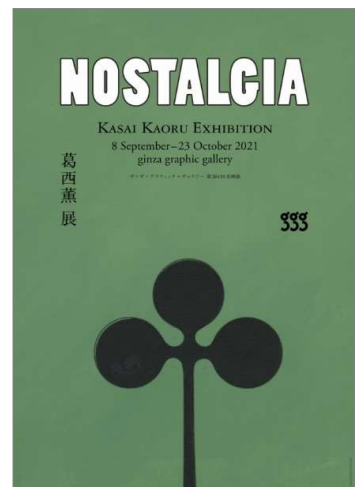
入場者： 8,623名、一日平均226名

1992年の個展から約30年ぶりに、葛西薫氏の展覧会を開催しました。今展では、過去のアイデアスケッチや落書きなどを掘り起こし、新たな作品として発表しました。

合わせて、葛西氏が長年手がけてきたブックデザインをはじめ、パッケージデザイン、アニメーション、プロダクトデザイン等々、幅広いジャンルの作品が一堂に会しました。あわせて、高精彩出力による作品集『葛西薫 Nostalgia』を刊行しました。

2階ライブラリーではサントリーやユナイテッドアローズなど葛西氏の名作CMを上映しました。さらに葛西氏ご本人によるギャラリーツアー動画を制作、また、ゲストを迎えた対談も2回実施し、財団YouTube公式チャンネルで配信しました。

- ・9/30 葛西薫+上田義彦（写真家）+皆川明（ファッションデザイナー）
- ・10/12 葛西薫+西川美和（映画監督）



■第 385 回 日本のアートディレクション展 2020-2021

会 期： 2021 年 11 月 1 日～11 月 30 日

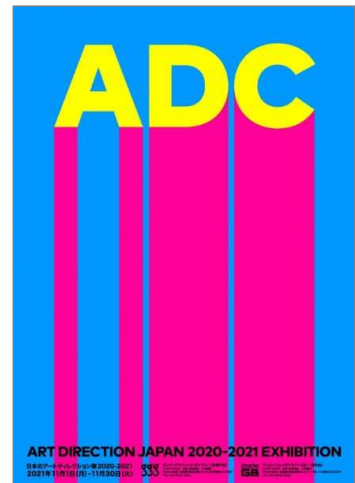
入場者： 6,154 名、一日平均 256 名

毎年恒例の ADC 賞受賞作品展。2019 年、2020 年とも、新型コロナウイルスの影響で中止となったため、本年は 2019 年 5 月から 2021 年 4 月までの 2 年間に発表、使用、掲載されたい作品が審査対象となりました。

約 10,000 点の応募作から選定された会員受賞作品とノミネート作品を展示。本年のグランプリは、国立新美術館で開催した個展によって佐藤可士和氏が受賞しました。会期中、佐藤氏と服部一成氏の対談を実施しました。

なお、本展は下記の 2 箇所に巡回します。

- ① 2022 年 1 月 9 日（日）～2 月 11 日（金）
市立小諸高原美術館・白鳥映雪館（長野県小諸市）
- ② 2022 年 4 月 7 日（木）～5 月 10 日（火）
学びの杜ののいちカレード（石川県野々市市）



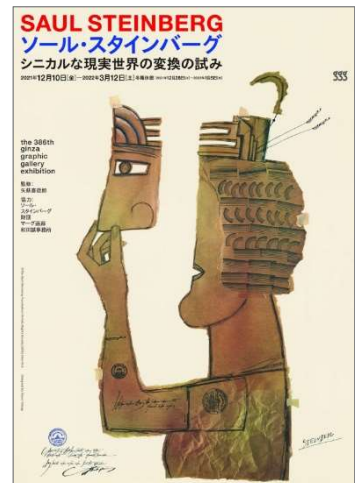
■第 386 回 ソール・スタインバーグ シニカルな現実世界の変換の試み

会 期： 2021 年 12 月 10 日～2022 年 3 月 12 日

入場者： 8,858 名、一日平均 128 名

アメリカでもっとも愛された芸術家の一人、ソール・スタインバーグ (1914—1999) の日本初となる大規模展覧会です。ニューヨークのソール・スタインバーグ財団の協力により、ポスター、リトグラフ、エッチング、木版画、ドローイングなどを含む、約 280 点の作品が一堂に会しました。会場構成・監修は矢萩喜從郎氏。1 階、地階ともに象徴的に拡大されたドローイングが目を引く展示空間となりました。また、展覧会図録を刊行しました。日本語の刊行物がほとんど存在しないこともあって、好評を博しました。

オンラインによるプロモーションとして、財団公式 Twitter アカウントで、スタインバーグのドローイングにユーモラスなコメントを添える「スタインバーグ大喜利」、および、ウェブブラウザ上で全出展作品をキーワードごとに鑑賞できる「みどころキューブ」を公開しました。



(2) 京都 d d d ギャラリー (d d d) の展示

〒616-8533 京都市右京区太秦上刑部町 10

日曜・月曜・祝日休館、開館時間：午前 11：00～午後 7：00、入場無料

■第 228 回 ヘルムート シュミット タイポグラフィ：トライ トライ トライ

会 期： 2021 年 4 月 3 日～7 月 10 日

緊急事態宣言により 4 月 27 日～5 月 11 日は休館

入場者： 2,386 名、一日平均 39 名

大阪を拠点に独自の活動を展開し、2018 年に他界したタイポグラフィ、グラフィックデザイナー、ヘルムート・シュミット氏の回顧展。シュミット氏は、戦後の世界のグラフィックデザイン界に大きな影響を与えたスイス・タイポグラフィの潮流を受け継いでいました。

本展は、シュミット氏の実践の全体像を展覧する初の大規模回顧展として企画され、企業などから委嘱された仕事だけでなく、自主制作の実験的作品も展示しました。あわせて、交流のあった人々との書簡や写真も展示し、作家の全体像を紹介しました。



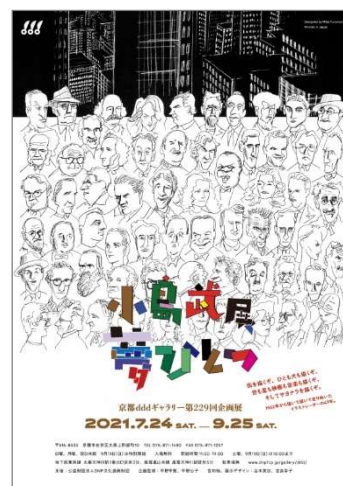
■第 229 回 小島武展 夢ひとつ

会 期： 2021 年 7 月 24 日～9 月 25 日

入場者： 702 名、一日平均 15 名

2009 年に他界したイラストレーター、小島武氏の回顧展。同氏は、22 歳のとき、60 年代カウンターカルチャーの発信地「アートシアター新宿文化」の公演ポスターでデビューし、広告・エディトリアルを舞台に、イラストレーターとして多くの作品を発表しました。また、フォークグループ、六文銭の小室等や井上陽水らとレコードレーベル「フォーライフ」の発足に参画するなど、ミュージシャンたちとの親交が深いことでも知られていました。

本展では、小島氏の膨大な作品群から、「かわいいイラスト」、「マンガ」、「コラージュ作品」などの切り口で代表作を展示し、イラストレーター小島武の 47 年の軌跡をたどりました。



■第 230 回 SURVIVE - EIKO ISHIOKA /石岡瑛子 デザインはサバイブできるか

会 期： 2021 年 10 月 16 日～12 月 18 日

入場者： 3,681 名、一日平均 84 名

令和 2 年度に g g g で開催された石岡瑛子展を巡回しました。
石岡氏は 1961 年に資生堂宣伝部入社以来、前田美波里を起用したポスターなどで頭角を現しました。その後、パルコ、角川文庫など時代を代表する数々のキャンペーン、ファッションショーの演出、書籍デザインなどを手がけ、日本を代表するグラフィックデザイナー、アートディレクターの一人として知られています。
本展では g g g 展を再構成し、広告の仕事を中心に、レコードジャケットや書籍雑誌、映画演劇ポスター、直筆スケッチ他、自主制作のアート作品などを展示しました。



■第 231 回 鳥海修「もじのうみ: 水のような、空気のような活字」

会 期： 2022 年 1 月 15 日～3 月 19 日

入場者： 2,426 名、一日平均 55 名

書体設計士、鳥海修氏の個展。鳥海氏は、「日本人にとって文字は水であり、米である」というタイポグラフィ家小塚昌彦の言葉をきっかけに、これまでヒラギノや Windows に搭載された游明朝・游ゴシックなど、100 以上もの書体を生み出してきました。
本展では、鳥海氏の生地であり原風景である、山形県遊佐町から望む鳥海山の景色を背景に、デザイン過程のスケッチや下書き、原字、実社会での使用例、小島氏の書体を使用した作家やグラフィックデザイナーたちの言葉などを展示し、日常生活に欠かせない書体がいかに制作され、インフラとしての活字になっていくのかを紐解く展示を行いました。



(3) CCGA現代グラフィックアートセンターの展示

〒962-0711 福島県須賀川市塩田宮田 1

月曜・祝日の翌日休館、開館時間：午前 10：00～午後 5：00

入館料：一般 300 円／学生 200 円／小学生以下と 65 才以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

■第 83 回 つながりのデザイン：DNP グラフィックデザイン・アーカイブコレクション

会 期：2021 年 3 月 2 日～6 月 6 日

入場者：655 名 一日平均 8 名

CCGA 収蔵の DNP グラフィックデザイン・アーカイブから、つながりや絆をキーワードに選定したポスター作品を展示しました。

東日本大震災の発生直後に「絆」という言葉が頻繁に語られました。コミュニケーションを主目的とするグラフィックデザインがどのようにつながりを表現しているかに目を向け、そこに見られる表現を改めて見直しました。



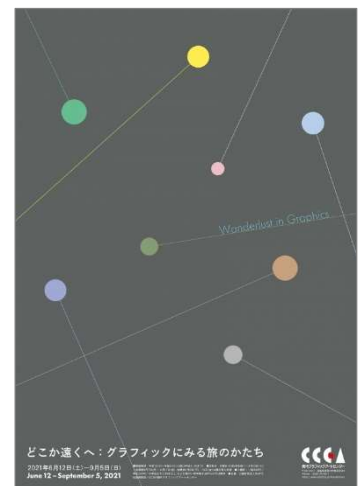
■第 84 回 どこか遠くへ：グラフィックにみる旅のかたち

会 期：2021 年 6 月 12 日～9 月 5 日

入場者：768 名 一日平均 10 名

CCGA 収蔵の DNP グラフィックデザイン・アーカイブコレクションから選定した、広い意味での旅に関するポスターを展示しました。

旅には移動手段や目的地、体験など多くの要素が含まれ、現在でも、交通や観光誘致などに関するポスターは広く目にすることができます。グラフィックデザインであらわされた旅の表現によって人々の尽きせぬ移動の欲求に触れることを通して、非日常へのひとときの小さな「旅」へと誘いました。



■第85回 線を引く：タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.34

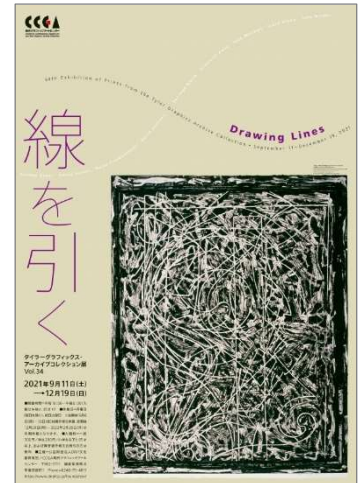
会 期： 2021年9月11日～12月19日

入場者： 687名 一日平均8名

CCGA 所蔵のタイラーグラフィックス・アーカイブコレクションから線の表現が印象的な作品を展示しました。

グラフィックアートとは古典的には線的な表現を用いた視覚芸術を意味し、そこに含まれる版画もまた、かつては線によってイメージを描き出すメディアでした。

表現や技法の幅が広がり、「線で描く」ことの意味も変わってきた中で、いまでも線を主体とした魅力的な版画作品が数多く生み出されています。本展は、現代版画の世界における多彩な線の表現を展示しました。



● 各展示に当たっては、三会場とも、新型コロナウイルス感染症対策として、次のことを行いました。

- ① ギャラリー入口での非接触温度計による検温。発熱・体調不良の方の入館禁止。
- ② ギャラリー入口にアルコール消毒液を設置し、スタッフによる手指消毒要請。
- ③ 来場者のマスク着用義務。
- ④ 展示室内での大声の会話禁止。
- ⑤ 混雑時の入場者の人数制限。
- ⑥ ギャラリー入口扉の定期的な開放および空調設備による換気の強化。
- ⑦ 受付スタッフのマスク・フェースシールド・手袋着用。
- ⑧ 受付カウンターへのパーティション設置。
- ⑨ ドアノブ・手すりのこまめな消毒。

3 教育・普及関連事業

(1) ギャラリートーク（セミナー）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、ギャラリートーク等の会場に参加者を集める対面式のイベントに代わるものとして、YouTube にDNP文化振興財団公式チャンネルを開設し、作家やゲストキュレーターによるトークイベントの映像を配信しました。

YouTube 公式チャンネルでは、コロナ収束後も、トークイベントや展覧会解説動画等を積極的に配信する予定です。

ギンザ・グラフィック・ギャラリー（g g g）

- 「オリンピック・ランゲージ：デザインでみるオリンピック」展
記念講演会
講師：マルクス・オスターヴァルダー（オリンピック・デザイン史家）
- 「葛西薫展 NOSTALGIA」 ギャラリートーク Vol.1
出演：葛西薫×上田義彦（写真家）×皆川明（ファッションデザイナー）
- 「葛西薫展 NOSTALGIA」 ギャラリートーク Vol.2
出演：葛西薫×西川美和（映画監督）
- 「日本のアートディレクション展 2020-2021」 ギャラリートーク
出演：佐藤可士和×服部一成



京都 d d d ギャラリー（d d d）

- ヘルムート・シュミット展紹介コンテンツ
出演：阿部宏史、ニコール シュミット、長谷川哲也
- ヘルムート・シュミット展
「ヘルムート シュミットについて」
出演：原研哉、白井敬尚、室賀清徳、フィヨドール・ゲイコ、ヴィクター・マルシー、ラース・ミュラー、フィリップ・トイフェル、阿部宏史、ニコール・シュミット
- ヘルムート・シュミット展 3D ウォークスルー
協力：名古屋芸術大学 准教授 竹内創、講師 加藤良将
※2022年3月28日配信終了



- 小島武展解説
出演：平野公子
- 石岡瑛子展解説
出演：河尻亨一
- 石岡瑛子展トークイベント
「石岡瑛子を語る」
出演：河尻亨一×谷口純弘
- 鳥海修展解説
出演：鳥海修、堤拓也



- 音声対談企画
近年注目を集めているクリエイターたちによる対談の音声コンテンツを YouTube で配信しました。

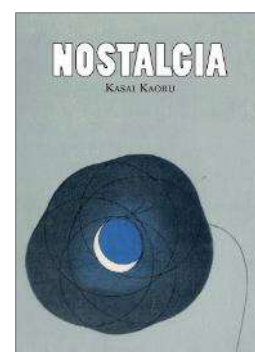
- 第1弾 大西隆介×近藤聡乃
- 第2弾 中垣信夫×山縣良和
- 第3弾 佐藤直樹×ナカムラクニオ
- 第4弾 西まどか×加藤賢策



(2) 図録等の発行と頒布

令和3年度は以下の2点を発行しました。

- 『NOSTALGIA 葛西薫』
ggg 展にあわせて発行した、高精彩プリモアート印刷（特殊なインクジェット・プリンターによる高品位印刷）による作品集。同展のために制作された新作を紹介。
38×28 cm、30 ページ、価格：5,500 円（税込）
- 『ソール・スタインバーグ シニカルな現実世界の変換の試み』
ggg 展にあわせて発行した展覧会図録。出展作から選定した約 160 点を収録。
編集・執筆：矢萩喜従郎
8×22.2 cm、68 ページ、価格：1,650 円（税込）



(3) アニュアルレポート

令和2年4月から令和3年3月までの活動をまとめたアニュアルレポート『Graphic Art & Design Annual 2020』を発行しました。

表紙デザイン：石岡怜子×田中良治（コラボレーション作品）

序文：服部一成

A4 変型判、92 ページ、価格：1,100 円（税込）



(4) 版画工房（CCGA／ワークショップ）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度は版画工房の活動を休止しましたが、令和3年度は2年ぶりとなるワークショップを開講しました（土曜日の一般開放は引き続き休止中）。

● 「木口木版と活版印刷で句画集づくり」

日時：

① 6月19日、6月26日、7月10日、7月17日、
7月24日、7月31日 全6日間

② 8月28日、9月4日、9月18日、9月25日、
10月2日、10月9日 全6日間

各日 10:00～16:00

講師： 野口和洋氏（木口木版画家）、
竹村渉氏・若林亜美氏（活版印刷工房まんまる〇）

概要： 松尾芭蕉が「おくのほそ道」の旅の途中で福島で詠んだ俳句に合わせて木口木版画を制作し、工房に設置のアルビオン・プレスを使った活版印刷と組み合わせて、外箱付きの本格的な句画集を制作しました。

受講者数：各回6名



4 国際交流関連事業

(1) A G I（国際グラフィック連盟）日本会員事務局サポート

2020年に予定されていたニュージーランド総会につづき、2021年9月のシドニー総会も、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、中止となりました。

(2) 国際交流基金主催によるスポーツポスター展巡回に協力

2020年の国際交流基金ロンドン主催のオンライン講演会への協力がきっかけとなり、国際交流基金の海外拠点を巡回するスポーツポスター展を開催することになりました。第1回展は、国際交流基金シドニー日本文化センターを会場に、2021年10月から2022年1月まで開催されました。コロナ禍によるロックダウンと重なってしまいましたが、会期中1,112名の来場者がありました。



展覧会名： A Sense of Movement: Japanese sports posters

会場： 国際交流基金シドニー日本文化センター

会期： 令和3年10月15日～令和4年1月22日

出品作家： 青葉益輝、浅葉克己、上西祐理、葛西薫、亀倉雄策、佐藤卓、田中一光、福田繁雄、横尾忠則

次回会場： パリ日本文化会館（会期：令和4年9月1日～10月8日予定）

5 研究助成関連事業

(1) 2021年 グラフィック文化に関する学術研究助成

令和3年度は下記の要領で実施し、新規採択14件、継続助成7件、計9,460,000円の助成金を交付しました。

募集テーマ： A部門 グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする学術研究

B部門 グラフィック文化に関するアーカイブをテーマとする研究

募集期間： 令和3年4月1日～6月19日

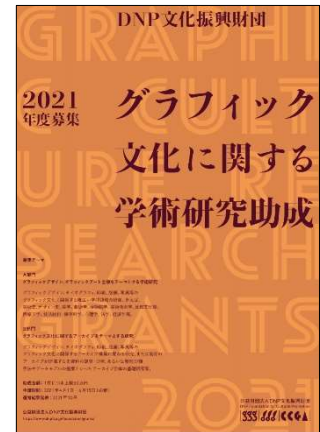
助成対象： 研究機関に在籍する研究者・大学院生・学芸員等及びそれに準じる研究能力のある者。

応募数： 61件（A部門国内47件・海外2件／B部門国内11件・海外1件）

選考： 7月～9月 一次審査（申請書類による書類審査）
9月28日 二次審査（DNP 銀座ビルにて）

採択研究： 新規採択14件（助成総額636万円）
継続助成7件（助成総額310万円）
詳細は次頁参照

審査委員： 前田富士男（副委員長） 慶應義塾大学名誉教授
井口壽乃 埼玉大学大学院教授
建畠 哲 多摩美術大学学長、埼玉県立近代美術館館長
永原康史 多摩美術大学教授
並木誠士 京都工芸繊維大学教授、京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長



●令和3年度採択研究（14件）

	部門	テーマ	氏名 所属	交付額	次年度 継続 希望
1	A	日本工房の对外宣伝グラフ雑誌『CANTON』と1939年広東における日中宣伝戦	陳 鶯 京都工芸繊維大学 研究生	500,000 円	○
2	A	イタリア未来派における写真受容：写真実験「フォトディナミズム」の総体解明	角田 かるあ 慶応義塾大学大学院 後期博士課程	500,000 円	○
3	A	版画とグラフィックデザインの交錯と境界：1950-70年代の日本を中心に	中尾 優衣 東京国立近代美術館 主任研究員	400,000 円	○
4	A	風景論争の研究：原将人の作品と批評を中心に	佐々木 友輔 鳥取大学地域学部 講師	400,000 円	○
5	A	港屋絵草紙店の夢二版画にみる彫師伊上凡骨の仕事—明治絵画の筆致を製版する彫刻技法「サビ彫り」について	張 諒太 京都精華大学 博士後期課程特別研究生	420,000 円	
6	A	シピ・ピネルズの編集デザインと教育活動：20世紀米国における女性デザイナーの葛藤と超克	櫻井 かのこ 岐阜大学 大学院生	340,000 円	○
7	A	国家表象としてのグラフィック：ナチ期ドイツのベルリンにおける日本の印刷文化展を中心に	江口 みなみ 筑波大学 研究員	500,000 円	○
8	A	リチャード・ハミルトンのインクジェットデジタルプリントの考察：美術作品における絵画、写真、印刷の比較検討とともに	吉村 典子 宮城学院女子大学 教授	400,000 円	○
9	A	グラフィックの身体性：BIPOC デザインの越境性について	グリフィス キオ	500,000 円	
10	A	ルイス・サリヴァンの装飾における社会思想の表現—装飾図案集とその草稿の分析を通して	倉田 慧一 東京大学 大学院博士後期課程	500,000 円	○
11	B	坂口恭平の制作活動のアーカイブ	池澤 茉莉 熊本市現代美術館 学芸員	400,000 円	
12	B	若江漢字撮影によるヨーゼフ・ボイス・ドキュメントのアーカイブ構築と公開促進	三本松 倫代 神奈川県立近代美術館 主任学芸員	500,000 円	○
13	B	松澤宥作品および所蔵資料のアーカイブ化とデジタルアーカイブ公開に関する研究	木内 真由美 長野県立美術館 主査学芸員	500,000 円	○
14	B	地域資源としての「染型紙」のアーカイブ化および活用についての実践的研究—大崎市岩出山および羽後街道沿いに現存する染型紙を対象として—	平岡 善浩 宮城大学 教授	500,000 円	○

令和3年度採択者 助成金交付額合計 6,360,000 円

●令和2年度採択研究継続助成（7件）

	部門	テーマ	氏名 所属	交付額 下段は昨年度 交付額
1	A	16世紀にキリスト教宣教師がもたらした銅版画の役割	蜷川 順子 関西大学 東西学術研究所 客員 研究員	400,000 円 (400,000 円)
2	A	戦後フランスの複製技術による芸術の共有化に関する研究—フォートリエの「複数原画」を手掛かりに	木水 千里 早稲田大学 助教	500,000 円 (500,000 円)
3	A	チェッコリ絵における逆遠近法の解釈と、その造形的研究に基づくデザイン展開	林 東煥 九州大学大学院芸術工学府 大学院 博士後期課程	400,000 円 (400,000 円)
4	A	近代日本における〈学校用民間教育掛図〉の図像学的研究	牧野 由理 埼玉県立大学保健医療福祉学部 准教授	500,000 円 (500,000 円)
5	A	戦後日本のデザインにおける勝見勝の国際的役割	碓井 麻央 富山県美術館 学芸員	500,000 円 (500,000 円)
6	A	牧野文庫コレクションにみる日本のボタニカルアート研究 -江戸時代の植物画と牧野富太郎植物解剖図の造形特徴比較-	大友 邦子 筑波大学 准教授	400,000 円 (400,000 円)
7	B	金属活字における平仮名・片仮名の字形一覧の作成と研究	石崎 康子 横浜市歴史博物館 主任学芸員	400,000 円 (400,000 円)

令和3年度継続助成 助成金交付額合計 3,100,000 円

合計 9,460,000 円

●研究助成成果報告会、及び研究紀要の刊行

令和2年度はコロナ禍による研究遂行の大幅な遅れを考慮し、令和2年6月に臨時開催した書面による審査委員会において、助成期間延長の特例措置を決定しました。これに伴い、例年11月に行っている研究助成成果報告会、ならびに研究紀要『DNP文化振興財団 学術研究助成紀要』の発行は令和4年に延期しました。

(2) 令和3年度協賛助成実績 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

	対象	主催	年月	金額	備考
1	第32回すかがわ国際短編映画祭へ協賛	すかがわ国際短編映画祭実行委員会／須賀川市教育委員会	2021/10	30,000円	短編映画フェスティバル及びコンペ。例年継続。令和2年度はコロナ禍により中止し、今回で終了。
2	須賀川地区地元高等学校美術部研修会への助成	須賀川地区高等学校美術部連盟	2021/12	60,000円	例年、須賀川地区高等学校美術部連盟によりCCGAで開催される研修会。
3	第32回田善顕彰版画展へ協賛	須賀川商工会議所青年部	2022/2	50,000円	須賀川出身の江戸期の銅版画家、亜欧堂田善顕彰を目的とする、須賀川市内小中学生対象の版画コンクール。例年継続。令和2年度はコロナ禍により中止。

(3) 会員参加

以下の団体の会員となっています。

1. 東京イラストレーターズ・ソサイエティ / 賛助会員
2. 東京アートディレクターズクラブ / 賛助会員
3. 公益社団法人日本グラフィックデザイン協会 / 賛助会員
4. 東京タイプディレクターズクラブ / 法人・団体会員
5. 公益財団法人助成財団センター / 会員
6. 全国美術館会議 / 会員館 (CCGA現代グラフィックアートセンター)
7. 東京アート&ライブ構想実行委員会 / 会員

6 会議の開催

●第29回理事会

(令和3年5月22日)

理事会決議の省略の方法による(定款第37条第2項)

提案(1) 令和2年度(4月1日～3月31日)事業報告および収支決算について

提案(2) 評議員会の招集について

●第12回 評議員会

(令和3年6月8日)

DNP市谷加賀町ビル 17階 会議室 東京都新宿区市谷加賀町1-1-1

およびオンライン会議システム(T e a m s)

第1号議案 議長の選任について(決議事項)

第2号議案 議事録署名人選出について(決議事項)

第3号議案 令和2年度事業報告書について(報告事項)

第4号議案 令和2年度計算書類等について(決議事項)

第5号議案 特定費用準備資金について(報告事項)

●第30回 理事会

(令和3年6月8日)

DNP市谷加賀町ビル 17階 会議室 東京都新宿区市谷加賀町1-1-1

およびオンライン会議システム(T e a m s)

第1号議案 令和2年度利益相反取引の承認について(決議事項)

第2号議案 理事長および専務理事の業務執行状況について(報告事項)

●第31回 理事会

(令和4年1月31日)

理事会決議の省略の方法による(定款第37条第2項)

提案(1) 京都d d dギャラリーの移転について

提案(2) 理事(補欠)候補者の推薦について

●第13回 評議員会

(令和4年2月25日)

評議員会決議の省略の方法による(定款第21条第3項)

提案(1) 理事(補欠)の選任について

●第32回理事会

(令和4年3月14日)

DNP市谷加賀町ビル 17階 会議室 東京都新宿区市谷加賀町1-1-1

およびオンライン会議システム (Teams)

第1号議案 令和4年度寄付金の受入について (決議事項)

第2号議案 令和4年度事業計画、予算計画について (決議事項)

第3号議案 令和4年度利益相反取引の承認について (決議事項)

第4号議案 令和4年度資金調達及び設備投資の承認について (決議事項)

第5号議案 理事候補者9名の推薦について (決議事項)

第6号議案 評議員候補者2名の推薦について (決議事項)

第7号議案 評議員選定委員会の運営細則一部変更について (決議事項)

第8号議案 研究助成審査委員7名の選任について (決議事項)

第9号議案 研究助成プログラムの助成金交付について (決議事項)

第10号議案 令和4年度協賛計画について (決議事項)

第11号議案 理事長及び専務理事の業務執行状況について (報告事項)

以上